

特集

工夫し 創造する資質・能力



Contents



FunTrails 合同会社代表 奥宮 俊祐さん
トレイルランを通じて地域貢献に新たなあり方を…………… 2

Q & A

工夫し創造する資質・能力を育てる 手塚 美代子 …… 3

教育の目

子どもの実態に基づいた家庭科の資質・能力 中山 節子 …… 4

実践事例

工夫を見いだす実践的活動～整理・整頓の実践から～ 松元 瞳美 …… 6

工夫し創造する資質・能力を育成する学習 尾形 美和子 …… 8

新着情報……………10

研究大会情報……………11

インフォメーション……………12

QRコードから、
冊子の詳細を
見ることができます！



この資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、配布
を許可された資料です。

開隆堂

トレイルランを通じて 地域貢献に新たなあり方を



トレイルランニングの 現役アスリートに インタビュー



おくのみや しゅんすけ
奥宮 俊祐

FunTrails 合同会社代表

1979 年生まれ。埼玉県在住。

25 歳の時に、不整脈の手術を受け完全回復。快適に走れる喜びを初めて味わい、走りの楽しさを再確認。その年、初めて日本山岳耐久レース（ハセツネ）を走り 3 位入賞。それ以来、トレイルランニングに全力を注ぐようになる。

多くの人にトレイルランの魅力を

大自然の景色を楽しみながら、未舗装の登山道や林道を駆け抜ける「トレイルランニング」。近年、このスポーツを通じて地域貢献のあり方に一石を投じる動きがある。トレイルランニングの楽しさを広めようと、大会運営なども手掛ける FunTrails 合同会社代表の奥宮俊祐さんに話を聞いた。

Q アスリートとしてのトレイルラン

中学生の頃から陸上部で長距離を続けてきました。大学を卒業後、パン屋さんに勤めた後に自衛隊に入隊しました。先輩の自衛官に紹介されて、2005 年に初めて出場した日本山岳耐久レース（ハセツネ）がトレイルランニング（以下、トレイルラン）との出会いです。

トレイルランでは、専用のザックやシューズ、コースによってはストックなどが基本装備となります。また、日々の体調管理のために、ガーミンのウェアラブルデバイスを活用しています。心拍数や睡眠の質を計測してくれるだけでなく、大会の日付や目標タイムを入れておけば普段の生活でやるべきことを提案してくれます。

今も選手として国内外のレースに参加していますが、自分の納得のいく走りを見せたい



という思いが強いです。やはりアスリートとして記録や順位でよい結果を出せると嬉しいです。ただ、過酷なレースを乗り越えた後に、フィニッシュ地点で周囲の人が自分以上に喜んでくれる姿を見ることが、トレイルランの楽しみの一つです。

Q 「地域貢献は金銭面だけじゃない」

トレイルランの楽しさを多くの人に広めたいと思い、2015 年に FunTrails を立ち上げました。トレイルランの大会の主催やウルトラマラソンの企画・運営などが事業の中心です。選手や運営側だけでなく、地域の人たちにも楽しんでもらえるような大会を目指しています。

毎年 11 月に、秩父市（埼玉）で主催している大会には、300 人以上のボランティアが参加します。一般のボランティアのほかに無線や救護などの専門的な知識や技術を持った人たちがそれぞれの役割を担ってくれています。大会後、選手や地域の人たちからの「また来年もやってね」の言葉が最高の労いです。

大会を通じて、新たな地域貢献のあり方も考えています。これまでは開催地の経済的支援につながるようにと、選手たちに地元のお菓子を提供したり、宿泊施設を案内したりしていました。最近ではスタッフや選手たちと一緒に地域の困りごとを聞いて、清掃活動をお手伝いすることもあります。金銭面だけにとどまらず、関わる人みんなが笑顔になるような取り組みをもっと広めたいと思っています。

Q&A



具体的にどうということ？

家庭科は生活について学ぶ教科です。生きることに全てつながっています。「衣食住」は命を保つために、「育児・介護・看護」は人間らしく生きるために、「安全・防災」は力を合わせて生きることを、「消費・環境」は持続可能な社会に、そして、生きることに中核に生活があります。単に知識の活用にとどめず、生活への願いや期待、意見、規範について、表現を介して外的世界に働きかける様相が工夫し創造することではないでしょうか。

「主体的に問題を見つけ課題を解決する力や、生活を工夫し創造する態度を育むことが大切」って言われるけど・・・



はて



Q. 主体的な問題解決学習にするには？

子どもの現実の生活から学び（問い）を引き出していますか。課題を考えるのは子ども、真正の課題も子どもが考えるから主体的になります。生活の何をどう学ぶか、主体的な問題解決は生活の学びにあるのではないのでしょうか。

Q. 現実の矛盾にせまる場面がなぜ重要？

知識の習得に終わらず、実際の生活を取り巻く社会を見つめその矛盾にせまることで、子どもは、なぜ、どうして、どうすればと問い、自分の生活と社会とをつなげながら考えます。現実とつながることで学びがより深まります。

Q. 自然科学・社会科学・人文科学の視点から生活の営みを考えるのは・・・

生活を見る目を家庭生活に限定できるでしょうか。今の消費中心の生活は、家庭と地域、社会、国、世界、地球環境、平和等とつながっています。科学的に理解し、社会や文化の視点から生活を見つめることで自分の考えを耕すことができます。

Q. 課題解決に向けて探究する授業とは？



生活の問題は解決できることばかりではありません。むしろ正解がない場合が多いです。例えば、共生では、正解より合意を見いだす学びが重要です。生活でのジェンダー、人権、平等、環境、貧困等の問題について、他教科と結びつけながら考え、検討する学びには大きな意味があります。

工夫し創造する学びを 阻む背景には・・・

知識注入型 家庭生活に限定した学び

ICT化・デジタルコンテンツの多用

スタンダード化された授業 価値のおしつけ

調理や製作だけ 評価のための活動

なるほど



子どもの権利条約批准から30年、
家庭科が男女共修となって30年、
子どもたちの学ぶ権利と未来を
拓く家庭科教育

(手塚 美代子)

子どもの実態に基づいた 家庭科の資質・能力

1

これからの時代に
求められる資質・能力とは？

現代社会はより複雑化し、予測困難なブーカ（VUCA：変動性（Volatility）、不確実性（Uncertainty）、複雑性（Complexity）、曖昧性（Ambiguity））の時代にある。地球環境の変化、自然災害の増加、経済的格差の拡大、加えて日本社会においては、少子高齢化による家族形態の変化が複雑に関係し、社会構造や働き方などに変化が起きている。近年では、グローバル化やAIなどの急速なテクノロジーの進化により、変化のスピードも加速している。私たちが望む未来を創るためには、どのような資質や能力が求められるのか。まずは以下の問いから始めてみよう。やや抽象的な問いであるため「今の中学生にとって」や「10年後に必要なになるだろう力」など問いを限定してみてもよい。

あなたが考える
これからの時代に求められる力とは



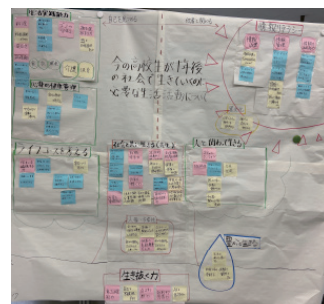
生活総研の「未来年表」で未来を眺めてみるのもこの問いを考える助けとなるかもしれない。例えば、中学生の年齢である13歳を入力してみると、現在（2024年）の13歳が38歳の年には、お金を介さない取引が増え「お金」が消滅すること、46歳の年までには、急速な少子高齢化により実質国内総生産（GDP）が約25%減少すること、さらにSDGsが達成されるのは、81歳の年であることなどが予想されている。

(<https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/>)

2

子どもの実態から資質・能力を
考えてみる

筆者が担当する大学院の授業で「これからの時代に求められる資質・能力とは？」を考えてみた。まず、この問いの解釈からはじめた。履修者に高校教員が2名いたこともあり、対象を高校生に限定し、「今の高校生が10年後社会で生きていくのに必要な生活活動について」を検討することにした。この問いのもと、各自思いついたことを付箋に書き出した。1人あたり約15枚程度の付箋を書き出したのち、すべての付箋を出し合って全体で議論しながらグルーピングをし、各グループの名前をつけた。最後にグループ間の関係性や配置について議論した。この結果をイラストの形にして示す（図1）。



グループの完成作品

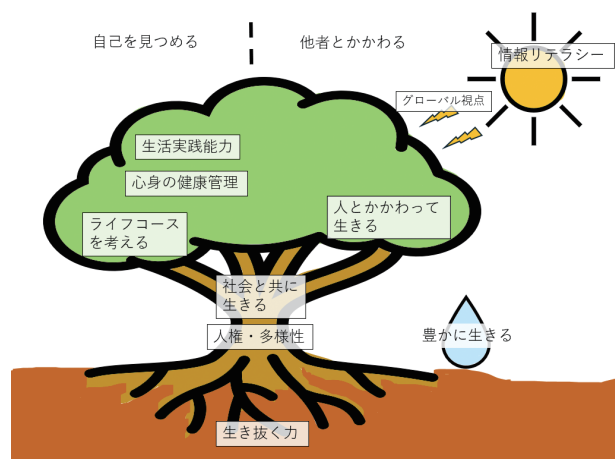


図1 10年後の社会で生きるための高校生に必要な生活活動

高校生が10年後の社会で生きていくために必要な生活活動とそれらを育む基盤となる要素を樹木の育ちに見立てている。「生き抜く力」（根）を基盤とし、社会との関わり（幹）の中で、多様な知識・技能・思考・経験（枝葉）を積み重ねていくことが表

現されている。また、育ちには外部からの環境（太陽・光）の影響を受け、豊かに生きるために必要な（水）が描かれている。根にある「生き抜く力」には、「自己を客観視する力」、「意思決定能力」、「批判的思考力」、「自己判断力」などが入っており、生徒が主体的に生きるための要素が挙がっている。幹には「社会と共に生きる」と「人権・多様性」があり、社会生活の中心となる対人関係の重要性が示されている。枝葉は、「生活実践力」や「心身の健康管理」があり、このグループには、衣食住、消費、環境、保育、介護、健康等に関する知識や技能の内容がある。また、幹に近い枝葉には、「ライフコースを考える」や「人とかかわって生きる」がある。枝葉に配置された事柄は、樹木の葉のように、古いものが散り、新しいものが芽生える可能性もある。また、図の左側を「自己を見つめる」、右側は「他者とかかわる」事柄として整理された。各要素が相互に関連し合い、バランスの取れた成長が重要であることを見出している。評価の観点からみれば、枝葉の育ち具合はわかりやすいが、根の状態は成長に時間もかかり、地中にあるためわかりにくい。可視化されていて実態が捉えやすく、比較的短期間での評価が可能な資質・能力と可視化されておらず実態が捉えにくく、評価には長期間の観察が必要となる資質・能力があるといえる。

このように、児童や生徒の実態に立ち返って、家庭科で身につく資質・能力について考えてみると、家庭科の本質的な学びを意識することにつながる。また、日々の授業で設定される資質・能力は、子どもたちが望む未来を創るための長期的展望を捉えにくい。そのために、生活の見方・考え方の視点が重要であることの理解も深まるだろう。

3

教科書から資質・能力を考えてみる

現行の学習指導要領では、家庭科で育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に沿って整理している。家庭科の教科書を用いて、家庭科で身につく資質・能力を具体的に探してみる方法もある。

家庭科の教科書から小学校「家庭」において育成を目指す資質・能力を見出せる箇所を探してください。ジャムボードを使ってグループでまとめましょう。

知識・技能	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能
思考力・判断力・表現力	日常生活の中から問題を見出し、課題を設定し、課題を解決する力 ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力 ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力 ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力
主体的に学習に取り組む態度（学びに向かう力・人間性等）	家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・家庭生活を大切にしている心情 ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度 ・生活を楽しくとらえる態度 ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

これは筆者が担当する小学校家庭科教育法の授業で行っている活動であるが、5・6人のグループでグーグルジャムボードを使ってまとめさせた例を図2に紹介する。このグループでは3つの資質・能力をベン図を用いて分類した。ベン図の重なりにある項目も多く、3つの資質・能力は簡単に分類することができない内容も多いこと、また、学びに向かう力・人間性は家庭科の多くの学習内容と関連していることなどを議論し、教科書の学習内容と資質・能力の両方の理解を深めていた。



図2 家庭科教科書から資質・能力を考える活動

4

資質・能力を考えてみることの意義

時代や社会の急速な変化によって、新しい概念やキーワードが次々と生まれ、それに伴い求められる資質や能力も多様化している。これら新出単語を自分の言葉で置き換え表現してみたり、既存の概念と対応させたりしながら、解釈を深めたり、他者と議論することが大事である。

千葉大学教育学部 准教授。
博士（学術）。
専門は家庭科教育、生活経営学。

中山 節子（なかやま せつこ）



工夫を見いだす実践的活動 ～整理・整頓の実践から～

福岡教育大学
附属久留米小学校
松元 瞳美
(まつもと あいみ)

1 はじめに

快適に過ごすためには、身の回りを整理・整頓することは欠かせない。さらに、整理・整頓を行う際には、整理・整頓する物や場所といった状況に合わせて使いやすく工夫することが重要である。しかし、「学校ではするけれど家ではしない」といった児童の実態もよく耳にする。そこで、整理・整頓の仕方が分かり、物や場所といった状況に応じて柔軟に工夫して整理・整頓を行い、生活の中での実践へとつなげていくことをねらった授業実践を紹介したい。

2 子どもの実態から課題をつかむ

題材の1時間目（1／4）には、教科書「わたしたちの家庭科5・6」の写真を基に、整理・整頓がなぜ必要であるのか全員で考えた。そして、健康・快適・安全に過ごすために整理・整頓が必要であることを見いだした。すると、次の休み時間には早速自分の身の回りを整理・整頓しようとする児童が見られた。また、どこかの整理・整頓が必要であるか調べた際には引き出しと答えた児童が多かった。さらに、整理・整頓をしても継続して行うことができていると感じている児童がいることが分かった。

そこで、本時（2／4）では、引き出しを教材とし、整理・整頓の仕方について調べていく授業を展開した。導入段階では、整理・整頓は必要であると捉えた前時を振り返らせ、整理・整頓ができていない引き出しの写真を提示した。児童からは、「取り出しにくい」「時間がかかりそう」といった声があった。そこから、どのように整理・整頓をするとよいかという本時のめあてを設定した（図1）。

3 工夫して解決できる教材の設定と実践活動

本時の展開段階では、「どのように整理・整頓するとよいのか」という課題を解決するために、「取り出しやすさ」「安全」といった視点を共有させ、実際に班で引き出しの整理・整頓を実践する時間を

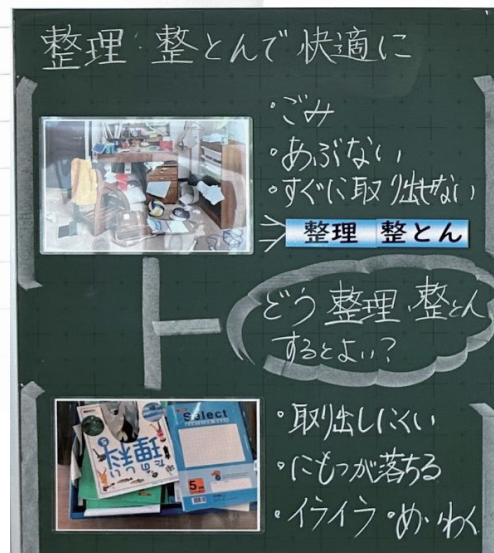


図1 導入段階板書

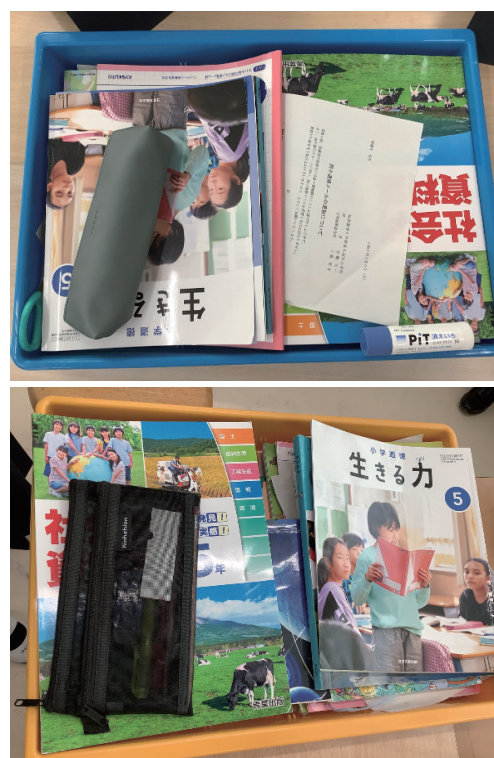


図2 整理整頓を行う班ごとの引き出し

設定した。ここでは、児童が普段から使用している教科書やノート、文房具を準備し、整理・整頓の仕方について話し合いながら課題を解決することができるようにした（図2）。

6月14日（金）	
時間割	
1 時間目	道徳
2 時間目	書写
3 時間目	国語
4 時間目	算数

図3 提示した時間割

また、その日の時間割を提示して整理・整頓の仕方について共通の基準を基に考えることができるようにした（図3）。

児童は、共有した視点を基に、班で「どう整理・整頓すると使いやすいのか」を話し合いながら整理・整頓の仕方

について調べる様子が見られた（図4）。

A児は、「まず全ての物を出して並べよう」と班に提案した。すると、同じ班のB児は、「大変だから並べる必要はないのでは」と返答した。すると、A児は「何が必要なのか分からないと整理できないから全て出した方がよい」と答えた。B児からの意見に対して前時までに身に付けた知識を用いて回答したのである。その回答にB児も「先に整理した方がやりやすそうだ」と初めの考えを変容させる姿が見られた（図5）。他の班では、整理を行った後、使いやすく並べる際に、「大きさごとに並べる方がよい」という考えと「教科ごとに並べる方がよい」



図4 班ごとによりよい整理・整頓の方法を話し合いながら引き出しの整理・整頓をする様子



図5 B児のノート

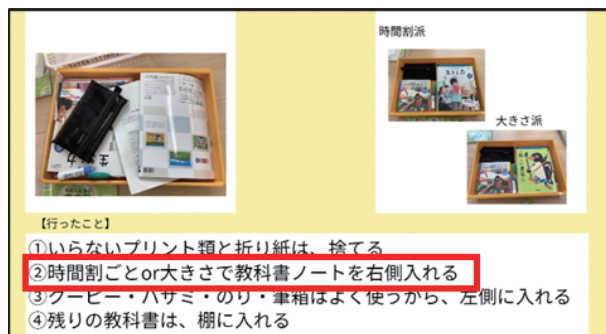


図6 C班の児童のノート

という考えで意見が分かれた。大きさごと、教科ごとに分けた方がよいと考える理由を班で説明していたところ、班の一人の児童が「どちらも使いやすいようにしていることは同じではないか」と意見の共通点に気が付いた。そこで、この班では、「取り出しやすいように教科や大きさでまとめる」という工夫を見いだすことができた（図6）。班で活動を行うことによって、整理・整頓の仕方の工夫についての根拠を明確にしなが実践したり、よりよい整理・整頓の仕方はないかと考えながら実践したりすることができた。

4 実践を共有し、整理・整頓の仕方を見いだす場の設定

それぞれの班で行った引き出しの整理・整頓について学習者用端末上にまとめ、全体で交流をした。ここでは、それぞれの班の工夫について発表させ、共通点を見いだすことができるようにした（図7）。ノート、教科書、文房具といった種類や大きさでまとめたり、仕切りを使って区切ったり、筆箱やよく読む本を手前に置いたりするといった工夫が各班から出された。そして、どの班もよく使う物を残したり、取り出しやすくしたり見やすくしたりする工夫を行っていることを全体で見いだすことができた。

本時の終末段階では、本時の学習を生かして生活の中で実践してみたいことについて考えた。すると、「今すぐに引き出しだけでなく学校の棚も整理・整頓したい」「家の学習机の中も整理・整頓したい」と生活の中での実践について具体的にイメージすることができた。



図7 班の実践をまとめる児童

5 おわりに

学習後には、「自分の部屋も本棚を大きさごとに並べました」と報告に来る児童がいた。家庭科の授業で身に付けたことを生活の中で当たり前実践していくことにつながっていったと思う。そして、今後も授業を通してできたこと、分かったことを生活の中で実践していくことができる家庭科の授業について私自身が勉強を重ね、実践をしていきたい。

資料

本時の児童のノート

6月14日

【めあて】

どう整理整頓すれば綺麗にできるのか調べよう。

【視点】

- 整理した様子
- 見やすさと取り出しやすさ
- 物の場所

【方法】

- 引き出しの整理
↓
- 比べてポイントをつける

【調べたこと】



【行ったこと】

- ①一回出した
- ②いらぬものを捨てた
- ③時間割順にまとめた
- ④道徳、書写、国語、算数
- ⑤右側に色鉛筆や筆箱を入れた



最初はプリントが出ていたけれど最後は綺麗にできた
→ハサミはカバをつけていないともし落ちてしまったら危ないからカバーをつける
プリントは持って帰ってほしいから廊下に置く物の方に入れた
時間割順にまとめた
→教科書やノート類は全部引き出しの左側に入れた
→まとめた方がやりやすい
右側には筆箱やのり、色鉛筆を入れた

【まとめ】

整理整頓するにはまとめたり区切ったり手元に置くことが大切で時間割ごとに置くと取り出しやすいが大きさごとにすると見やすくなった。

【ふりかえり】

整理整頓するにはまとめたり区切ったり手元に置くことが大切で時間割ごとに置くと取り出しやすいが大きさごとにすると見やすくなったことがわかった。

6月 14日

【めあて】

自分の引き出しや、部屋を快適にするためには、どのように整理・整頓すると良いのか調べよう。

【視点】

- ものの取り出しやすさ
- 安全
- 見やすさ
快適か

【方法】

- 引き出しの整理・整頓
↓
- 比べて、ポイントを見つける

【調べたこと】



【行ったこと】

- ①全部出した。
- ②その日に使わないものをランドセル（廊下の棚）に入れた。
- ③いらぬものを捨てた。
- ④教科書などを取り出しやすいようにその日の時間割の順に引き出しに入れた。

【まとめ】

自分の引き出しや、部屋を快適にするためには、「よく使う物を残す」「まとめる」「区切る」「手前に置く」などということを気をつけると良い。

【ふりかえり】

家の自分の棚や、学校の引き出し、学校の廊下の棚、学校の教室のランドセル入れなどを、今回見つけたポイントで、実際に整理してみようと思った。

工夫し創造する資質・能力を育成する学習

小金井市立
小金井第一中学校
尾形 美和子
(おがた みわこ)

1 はじめに

学習指導要領解説では、「生活を工夫し創造する資質・能力とは、家庭分野の学習で育成を目指す資質・能力（「何ができるようになるか」）であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立に必要なもの」であると記載されている。「生活を豊かにする工夫」について自分が特に意識して取り組んでいる授業は被服製作実習である。

身の回りの布製品は既製品が多く、家で裁縫をする場面は減っている。「裁縫」というと、苦手意識をもつ生徒も多い中、授業時間も限られている。このような状況から、①製作を通して生徒が自分の手で生活を豊かにできることを実感し、ものづくりの良さや楽しみを味わうこと、②自分が必要としているもの、自分の生活を改善するものを考えて製作する中で、長く使うための工夫を考えること、この2点をねらいとした。

2 授業実践 ～製作物決定～

題材名：手ぬぐい小物製作

対象：中学2年生

時数：9時間

本実践では、手ぬぐいを教材とし、生徒個人が生活のニーズに合わせた製作物を考え、作る授業を行った。

まず、それぞれの生活の課題やニーズに合わせて作りたいものを自分で決めた。教科書を参考にしたもの、教員が製作したものから7つの例の実物を示し、作り方をPC上で配布した。約7割の生徒は例の中から作るものを選んだ。例の中から選んだ場合も、ボタン位置、まちやスナップボタンの有無など、細かい部分を自分で決めるように指導した。



【7つの実物例】

残りの約3割の生徒は、自分の作りたいものをPCや教科書で調べた。生徒が調べた製作物の例としては、ポーチ、布トレイ、ぬいぐるみ、クッション、バッグ、巻物型道具入れ、ヘアバンドなどがあつた。

その後、製作計画をレポートにまとめた。製作計画・実習記録・まとめが一つのレポートになるようにまとめた。製作計画では、製作物をどのように使いたいか、入りたいものや具体的な生活場面を想定することで、丈夫に縫う箇所、デザイン上の工夫につなげられるようにした。

また、自分で作業の見通しをもって製作を行うために、1時間ごとの作業計画を立てた。最初と最後の1時間ずつは準備、仕上げ、予備とし、残り6時間は作り方を見ながら、大まかな計画を立てた。

作品名：手提げバッグ	
	どのように使いたいか（場所・製作目的） 近所へのお買い物など、気軽に使えるバッグ。いつもお世話になっている祖母へプレゼントしたい。
	必要な材料 手ぬぐい、カンテープ(幅2.5×40cm)...2本、マジックテープ(幅2.5×4cm)...1組
	手ぬぐいの柄：花火

【製作計画レポートの一部】

3 授業実践 ～製作とまとめ～

配布した作り方やそれぞれが調べてきた資料をもとに、製作を行った。教員は、それぞれの生徒の進捗を確認しながら、縫い方や製作上のポイントを机間指導した。また、学習支援員に製作が苦手な生徒や作り方の理解が難しい生徒の支援を依頼した。授業時間の最後の10分間は片づけ、実習記録の記入にあてた。

進捗の確認は、机間指導だけでは時間が足りないため、実習記録を確認し、躓きが見られたら、次の授業で支援するようにした。

製作工程：裏布をチャックに縫い付ける	
写真	上手くできたところ・工夫点 先週予定に遅れてしまっていたが、遅れを今回で取り戻すことができた。チャックのところを丈夫に縫うことができた。
	次回の目標・改善点 次回袋状にして、ひっくり返せるところまで進めたら完成なので、簡単に残りの布で作れるものを考えてきたい。

【実習記録】

実生活で使うことを意識するため、製作途中の段階でブックカバーに本を入れたり、弁当袋に弁当箱を入れたり、実際に使って大きさや丈夫さを確かめながら、製作を進めた。早く終わった生徒には、かんぬき止めや二度縫い等の縫い方を指導し、丈夫に縫うとよい箇所を生徒が考えながら、製作物の完成度が挙げられるようにした。



【完成作品の例】

完成後に工夫点をレポートにまとめた。以下がその一部である。

生徒の記述より

- ・今回一番工夫したのは、ゴムの位置だ。最初、ゴムを縫ったら、先端の部分から離れすぎていて先端の部分が入らなかった。2回目に、縫い直しても少ししか入らなかった。そして3回目ですべて先端の部分がきっちり収まった。
- ・小さなポケットの他に、大きなポケットも作ることで、ペン以外にも色々なものを入れられるようにした。
- ・縫い目なるべく細かくして布の隙間などを作らないようにした。特にマチの部分などは意識して細かめに縫った。そしてデザイン性も重視して布の切り返しを作ったり、マチを丸くして自立できるようにした。

4 おわりに

この学習では、生活のニーズや課題に合わせて生徒自身が選んだ教材であるため、意欲的に取り組む生徒が多かった。目的に合った形にするにはどうしたらよいか考えたり、より使いやすい形にするために縫い直したりと、試行錯誤する姿も見られた。

今回は生徒が製作計画を立てること、多様な製作物を選ぶようにすることから、9時間構成とした。実際には製作が4～5時間程度で終わる生徒もあり、その場合は余り布で他の製作物をつくっている。時間がかかる製作物を減らすことで、時間数を減らすことも可能だと考える。

生活を豊かにすることは、自分の生活やそこに関わる人・もの・ことに興味をもち、ニーズや課題を見つけることから始まると考える。生活に関わるものを自分で作る経験を通して、達成感や満足感を得て、次の活動への意欲を高められるように、今後も授業を工夫していきたいと思う。

新着情報

◆ 衣類などの洗濯表示が変わりました。
(令和6年8月20日以降に表示する記号)

表1 洗濯処理

番号	記号	記号の意味
190		・液温は95°Cを限度とし、洗濯機で洗濯ができる
170		・液温は70°Cを限度とし、洗濯機で洗濯ができる
160		・液温は60°Cを限度とし、洗濯機で洗濯ができる
161		・液温は60°Cを限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
150		・液温は50°Cを限度とし、洗濯機で洗濯ができる
151		・液温は50°Cを限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
140		・液温は40°Cを限度とし、洗濯機で洗濯ができる
141		・液温は40°Cを限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
142		・液温は40°Cを限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯ができる
130		・液温は30°Cを限度とし、洗濯機で洗濯ができる
131		・液温は30°Cを限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
132		・液温は30°Cを限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯ができる
110		・液温は40°Cを限度とし、手洗いができる
111		・液温は30°Cを限度とし、手洗いができる
100		・家庭での洗濯禁止

表2 漂白処理

番号	記号	記号の意味
220		・塩素系及び酸素系の漂白剤を使用して漂白ができる
210		・酸素系漂白剤の使用はできるが、塩素系漂白剤は使用禁止
200		・塩素系及び酸素系漂白剤の使用禁止

表3 タンブル乾燥

番号	記号	記号の意味
320		・タンブル乾燥ができる(排気温度上限80°C)
310		・低い温度でのタンブル乾燥ができる(排気温度上限60°C)
300		・タンブル乾燥禁止

表4 自然乾燥

番号	記号	記号の意味
440		・つり干しがよい
445		・日陰のつり干しがよい
430		・ぬれつり干しがよい
435		・日陰のぬれつり干しがよい
420		・平干しがよい
425		・日陰の平干しがよい
410		・ぬれ平干しがよい
415		・日陰のぬれ平干しがよい

※ぬれ干しとは、洗濯機による脱水や、手でねじり絞りをしないで干すことです。

表5 アイロン仕上げ

番号	記号	記号の意味
530		・底面温度210°Cを限度としてアイロン仕上げができる
520		・底面温度160°Cを限度としてアイロン仕上げができる
510		・底面温度120°Cを限度としてアイロン仕上げができる
511		・底面温度120°Cを限度としてスチームなしでアイロン仕上げができる
500		・アイロン仕上げ禁止

表6 ドライクリーニング

番号	記号	記号の意味
620		・パークロロエチレン又はジブトキシメタン若しくは石油系溶剤又はデカメチルペンタシクロシロキサンによるドライクリーニングができる
621		・パークロロエチレン又はジブトキシメタン若しくは石油系溶剤又はデカメチルペンタシクロシロキサンによる弱いドライクリーニングができる
610		・石油系溶剤又はデカメチルペンタシクロシロキサンによるドライクリーニングができる
611		・石油系溶剤又はデカメチルペンタシクロシロキサンによる弱いドライクリーニングができる
600		・ドライクリーニング禁止

表7 ウエットクリーニング※

番号	記号	記号の意味
710		・ウエットクリーニングができる
711		・弱い操作によるウエットクリーニングができる
712		・非常に弱い操作によるウエットクリーニングができる
700		・ウエットクリーニング禁止

※ウエットクリーニングとは、クリーニング店が特殊な技術で行うプロの水洗いと仕上げまで含む洗濯です。

(消費者庁公表資料より)

◆ 日本のジェンダーギャップ指数 2024 年は 146 か国中 118 位です。

全体順位	118 (125)
経済	120 (123)
政治	113 (138)
教育	72 (47)
健康	58 (59)

※ () 内は 2023 年の順位

経済分野の評価基準と順位

労働力率	80 (81)
同種業務での男女間賃金格差	83 (75)
収入の男女格差	98 (100)
管理職の男女比	130 (133)

(世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2024」より作成)

前年に比べ全体順位が7位アップしたが、先進国では最下位レベルである。順位が上がった主な要因は、政治分野の順位アップが大きい。また、経済分野においては、先進国中で最大の男女間賃金格差、管理職における女性割合の少なさが依然、目立っている。

小学校家庭科

● 第61回全国小学校家庭科教育研究会 全国大会・三重大会

大会主題	豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育
日時	11月22日（金）
会場	第1会場 授業公開 亀山市立亀山西小学校
	第2会場 授業録画放映&授業者解説 亀山市文化会館
	全体会場 亀山市文化会館
参加費	5,000円（資料のみ3,500円）
問い合わせ先	三重県小学校家庭科教育研究会 会長 四日市市立中央小学校長 長崎 雅子 TEL：059-353-9279 FAX：059-359-0108 E-mail：chuo-eteacher@city.yokkaichi.mie.jp

● 地区大会

北海道・東北	12月7日（土）【福島】	関東・甲信越	11月29日（金）【栃木】
近畿	11月8日（金）【大阪】	中国・四国	11月18日（月）【鳥取】
九州	11月26日（火）【宮崎】		

中学校技術・家庭科

● 第63回全日本中学校技術・家庭科研究大会・山形大会

大会主題	「未来社会を生き抜くための資質・能力を育む技術・家庭科教育」 ～創造的な問題解決の実践を通して～
日時・会場	11月14日（木）全国理事会・全体会【会場：山形テルサ】 11月15日（金）公開授業・授業分科会・内容別分科会【会場：山形市立第三中学校】
参加費	4,000円 ※昼食代（希望者）1,100円
申込方法	https://www.yamagata-gika.site よりお申込み
問い合わせ先	山形県中学校教育研究会技術・家庭科部会 事務局長 山形市立第二中学校教諭 黒沼 和幸 TEL：023-644-3902 FAX：023-645-8253 E-mail：k.kuronuma@dai2-j.ymgt.ed.jp

● 地区大会

北海道	10月17日（木）・18日（金）【上川】	関東・甲信越	10月24日（木）・25日（金）【千葉】
東海・北陸	10月31日（木）・11月1日（金）【福井】	近畿	11月7日（木）・8日（金）【滋賀】
中国・四国	11月27日（水）～29日（金）【徳島】	九州	11月20日（水）～22日（金）【沖縄】

インフォメーション

商品案内

家庭科室に掲示して、いつも確認！ 掲示用資料

実習・製作の手順

- 調理実習・製作実習の基本的な手順をそれぞれ 10 枚収録しています。



仕様 A1判/20枚 (カラー) ケース入り
定価 9,900円 (本体9,000円)
ISBNコード 978-4-304-02197-8

安全・防災・用具

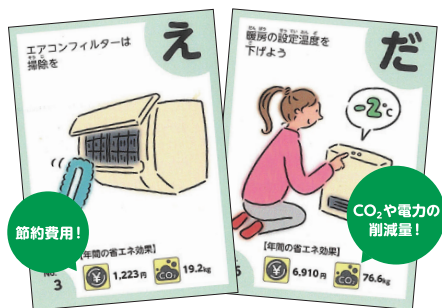
- 安全・防災・用具に関してそれぞれ 10 枚を収録しています。



仕様 A1判/30枚 (カラー) ケース入り
定価 14,300円 (本体13,000円)
ISBNコード 978-4-304-02194-7

ウルトラ省エネかるた

～暮らしに役立つ 70 の省エネアクション～



- 日常生活の中で、省エネにつながる行動を示したかるたです。

仕様 絵札 (4色)・読み札 (1色) / 各70枚+白札2枚
解説文 A4判1枚
定価 2,310円 (本体2,100円)
ISBNコード 978-4-304-02193-0

献立をたてて、つくってみよう

献立・クッキングカード



- 身近な調理例をカードにまとめています。献立作成、献立の栄養検討の学習に使うことができます。

仕様 128mm×182mm/全96枚
表面：オールカラー
裏面：1色 (ケース入り)
定価 2,420円 (本体2,200円)
ISBNコード 978-4-304-02177-0

開隆堂出版

LINE 公式アカウント
友だち募集中!

先生のためのお役立ち情報を配信!

- 教科書情報 ● 全国の実践事例
- セミナー情報 ● 公式 YouTube 動画
- 指導計画&評価規準 ● 情報誌 など



@004waevr

友だち追加は
こちらから!

KGK ジャーナル
Vol.59-3 家 (通巻 416 号)
非売品

令和 6 年 10 月 4 日印刷 令和 6 年 10 月 10 日発行 編集兼発行人 岩塚 太郎
発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1
☎ (03)5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6116 (編集)
<https://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03 (5684) 6111

北海道支社 〒060-0042 札幌市中央区大通西 11-4-21 52 山京ビル 7 階
東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区福岡 3-10-7 サンライン第 66 ビル 5 階
名古屋支社 〒461-0004 名古屋市中区栄 1-15-18 オフィスサンナゴヤ 9 階
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町 2-10-16
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港 2-1-5 FYC ビル 3 階

☎ 011 (231) 0403
☎ 022 (742) 1213
☎ 052 (908) 5190
☎ 06 (6531) 5782
☎ 092 (733) 0174